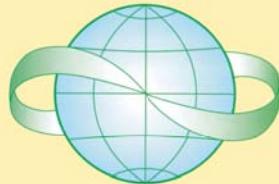


地域のリサイクル情報誌 「ヴィーナス通信」



商標登録第4882482号

Venus(静脈) Venus(護美の女神)

第90号

(新年号)

発行 東多摩再資源化事業協同組合
 理事長 吉浦高志 編集長 紺野琢生
 東京都東村山市久米川町1-16-65
 TEL: 042-395-9788
 FAX: 042-395-9787



2024年は、元日に発生した能登半島地震を始めとする自然災害、ロシアや中東における長引く国際紛争、政策活動費問題による衆院選での与党の大敗、米国大統領選挙でのトランプ氏の勝利など、国内外の経済に大きな影響を及ぼす事案が多くございました。国際紛争の長期化は、原燃料費の高騰を引き起こし、資源回収のコストアップやスクラップ価格の高騰による金属類の盗難の多発につながり、トランプ政権発足後の関税強化を見越した前倒し輸出により、海上運賃の高騰やコンテナ不足が発生し、古紙輸出価格が下落するなど、再生資源業界も少なからず影響を受けました。

何より苦労しているのが、2024年問題を始めとするドライバー不足です。求人にかかる経費も言うまでもありません。こここのところ毎年上

がっている最低賃金も、中小零細企業にとって社会保険料負担の増加も加わり人件費が年々上がっております。相当の負担増となっています。

一方、資源回収業務に対する社会的な要求は増えて行っていると感じています。事故や怪我なく安全安心に作業を行うことはもちろん、市民サービスとしての円滑な業務の遂行、国内メーカーへの安定的な原料の供給、古紙や金属類の窃盗事案へのパトロール対応、ドライブレコーダーや社内の監視カメラによる情報提供、地域活動への参加協力、災害発生時の支援体制、地球的規模での環境問題への取り組みなどです。

私たち組合は、この地域に分別の知識とノウハウを持った人財およそ130名、100台を超える車両と重機、この地域で発生する資源物をすべて処理できるだけのヤード施設を保有しています。これらを非常時にも役立てていくためには、平常時の事業の健全化が不可欠であり、常にスキルアップと作業の効率化を図るべく研究を重ねていく必要があります。

2025年は蛇年です。蛇のように今後も長く続く業界を目指して、リサイクルと環境を愛する人財に多く集まって頂けるような組作りを行ってまいります。貴重な資源をごみ化から守る動きも加速して参ります。

そのためには、市民の皆様、関係自治体、関連団体の皆様のご理解ご協力が不可欠です。引き続き変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

●ヴィーナス通信90号 目次●

- P 1…年頭所感 代表理事 吉浦 高志
- P 2…『東資協と回収業界の現状』 東京都資源回収事業協同組合 理事長 武田 誠一郎様
- P 4…東資協青年部創立30周年記念事業韓国視察研修に参加
- P 5…都知事予算要望に参加、コロッケ先生を偲んで、古紙センター創立50周年記念式典
- P 6…リサイクル掲示板『地球環境を守るために、雑がみを集めて資源にしましょう!』
- P 8…各市イベント参加報告、職場体験学習受入、小平RC現場責任者紹介
- P 10…共同受注検査、組合員異動のお知らせ、中央会表彰、AIドラレコ、集団回収の維持継続
- P 12…東村山市ワーク・ライフ・バランス推進優良企業認定、行事・行動、編集後記

リサイクル適性(A)

●リサイクルと東資協の歴史
我が国は資源リサイクルの歴史は、千年以上前に始まつたとされています。遡ること平安時代、紙がまだ非常に高価なものであった頃に、和歌や書などで使われた後ろの紙を集め古紙の漉き返しと呼ばれる紙のリサイクルを行い、「薄墨紙」という再生和紙を作つていたのが始まりです。商売としてリサイクルが成立するようになったのが江戸時代、庶民が生活の中で不要になつた屑紙、屑金、落毛などを回収し、リサイクルをつづきました。この当時作られていた「浅草紙」は、古紙を漉き返したもので、普通は色が黒く、黒保とよば

直言拝聴

『東資協と 回収業界の現状』

東京都資源回収
事業協同組合



理事長 武田 誠一郎 様

れて鼻紙や落し紙として使われていました。そして、戦後の焼け野原となつた東京で、物資が不足する中、先人たちが貴重な資源を拾い集めてリサイクルをする建場（たてば）業者として戦後復興に寄与していく中で、昭和二三年に組織されたのが「東京都資源回収商業協同組合」、今の東資協であります。なお、初代理事長那須野定平は私の母方の祖父にあたります。東資協は、昭和二十四年に改組し、「東京都資源回収事業協同組合」となり、令和二年には創立七十周年を迎えることが出来ました。翌令和三年には、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会において、オリンピックスタジアムを始めとする競技会場、選手村から発生する段ボールやびんの回収・再資源化業務にも携わることが出来、組合員の結束がより強固となつて今に至ります。一昨年東資協が主管した日資連全国大会東京大会と本年度の東資協通常総会には、小池百合子東京都知事のご臨席も頂きました。この当時作られていた「浅草紙」は、古紙を漉き返したもので、普通は色が黒く、黒保とよばれています。

なお、「建場業者」というのは、

廃棄物の用語でいうならば、積み替え保管を行つてゐる収集運搬事業者といつたところで、市民や買い子さん（回収人）が持ち込んだ資源物を仕切る（計量して買い取る）事業者のことです。リヤカーなどで回収を行つてゐる時代は都内に多数存在しました。回収ドラックを利用するようになり、また敷地が広く集荷の多い建場業者がプレス機などの設備を入れて問屋になることで、回収業と問屋業に二分化していったことや、古紙・金属くずを始め品目ごとの専業化が進み、今では建場という言葉 자체はあまり使われなくなりましたが、東資協の組合員は、今でも建場業者がベースになつていています。

●東資協について
さて、私たち東資協は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に定めるいわゆる「専ら物（古紙、古着、金属類、びん・カレット）」の回収・再資源化を行つてゐる事業者の組合です。都内各地に百六十社ほどの組合員が加盟し、自治会や子供会などの集団資源回収、新聞販売店による古紙回収、事業系の段ボールや金属くずなどの資源回収を主な生業としています。多くの組合員が、地元行政の委託事業の窓口として地域のリサイクル

組合を組織し、各区における東京モードI方式による資源回収にも携わっています。貴組合の事業範囲である東多摩支部からは、福田副理事長、紺野総務委員長、吉浦青年部長を執行部にご輩出頂き、この場をお借りして御礼申し上げます。

●資源物の動向について

前置きが少々長くなりましたが、資源物（専ら物）の動向や課題についてお話をさせて頂きます。

まず、古紙類は、デジタル化、ペーパーレス化の影響で全体的に発生減の傾向にあります。特に、新聞・雑誌の発行部数が減つてゐることが大きく影響しております。単純な部数減だけでなく、折り込み広告、残本や返本の減少で、発行部数の減少以上に古紙としての発生は減つてゐる状況です。段ボールについては、通信販売による需要増もあり、家庭からの発生が増えておりましたが、近年過剰包装に対する批判もあり、昨年度は減少に転じました。組成分析調査の結果、可燃ごみには二～三〇%の紙類が混入していふとされていますが、そのうちリサイクルできる紙類の掘り起こしのため、業界団体では、古紙の回収率向上を目指し、雑がみ類の回収拡大に取り

組んでまいりました。このことで、古紙の回収率は八〇%を超える高水準を維持しておりますが、一方で禁忌品と呼ばれるリサイクル不適な紙類の分別排出、選別の強化が課題となっています。特に再生紙製品に大きな影響を与える禁忌品A類の中で、家庭から発生しやすいものとしては、線香や洗剤の箱など臭いのきつい紙、ピザの箱など食品残渣や油のついた紙、緩衝材として混入する可能性のある昇華転写紙（アイロンプリント紙）などがあります。近年では、素材の多様化により、石灰石由来のストーンペーパーも普及し始めしており、見た目では紙と区別がつかない製品も出てきているため、市民や事業者への周知、広報の徹底が課題となっています。古紙の市況は、当組合が集団回収事業非常事態宣言を発出した令和二年に大暴落した時から徐々に回復しておりますが、国内での需要減や再資源化に関わるコスト増もあり、未だ回収経費に見合った価格にはなっていないのが現状です。

金属類は、建設業や製造業の不振により発生は減つておりますが、ロシアによるウクライナ侵攻以来、海外情勢不安から銅を始め各品目とも記録的な高値が続いています。

これにより銅線や真鍮、アルミ製品などの窃盗事案が多発しており、不燃ごみに出された家電製品まで持ち去られる事案が報告されています。こうした盗品を購入している不法ヤードが北関東や千葉方面に展開されていることも問題になつており、各県でヤード条例が施行されるなど、対策強化が始まっています。

古布・古着は、現状価格的にも需要的にも安定的に推移していますが、多くが海外に輸出されています。このことから、カントリーリスクを抱えていると言えます。実際、コロナ禍においては、断捨離による発生増の一方で、輸出先でのロソクダウンが重なり、古纖維問屋や行政のヤードには古布・古着があふれ、一時受け入れ停止となつたことがあります。また、濡れてしまうと資源にならないことから、雨の日には回収が出来ないこと、回収したものは五〇%超がリユース、残りは工業用のウエスやフェルト材にリサイクルされるものの、十五%程度はごみとなる不純物が混入しているため、さらなる分別排出への周知が必要です。

びん・カレットについては、容器の軽量化によるペットボトルの普及や、回収・保管のコストが売

値に見合わないことから、集団回収等の民間ベースで取り扱つていい組合員は少なくなりました。ほとんどが行政委託や専業者による回収となっています。びん製品の多様化やびん・缶混合回収、パッカー車回収により、そのままリユース可能な生きびん（リターナブルびん）を取り分けることが困難だつたり、カレットは、白・茶・その他の色分けしなければなりませんが、その他カレットや残渣が増えていることが課題です。

●回収の現場の状況について

そして回収の現場においては、コロナ禍以降、エッセンシャルワーカーとして市民生活に欠かせない業務という認識を頂くようになります、感染防止、熱中症対策を万全にしながら日夜業務に励んでいます。課題としては、二〇二四年問題以前から、ドライバー不足や高齢化が深刻となっています。運転免許証制度の改正に伴い、新普通免許ではトラックの運転が出来なくなつたことも起因しています。さらに、人件費、車両費を始め、燃料、消耗資材の高騰にも直面しています。また、近年新たな課題も出てきております。多摩地域のように戸別回収を実施している地域では、段ボール

や茶袋で梱包された「置き配」の荷物を資源物と間違えて収集してしまい、クレームに発展するケースや、古紙の中に混入したスプレー缶やリチウムイオン電池による発火事案も散見されています。そして、パッカー車による交通事故が全国的に多く発生していることから、車両の安全対策、運転手への安全教育の強化も必要となつてきます。貴組合のように、運転リスクを自動的に判定するAIドライブレコーダーを導入しているような先進事例は、東協としても見習っていただきたいと思います。

●終わりに

最後に、廃棄物、そして私たちの取り扱っている資源物は、都民の環境意識の向上、ライフスタイルの変化、リサイクル率の向上により、その発生が減少傾向にあります。環境保全、ゼロエミッションの観点からいへば、この先も発生量が減っていくことが予想されます。即ち私たちの商売的にはマイナスに影響して参ります。この先も発生量が減っていくことが予想されると、貴組合と共に共存共榮を図れる中、貴組合と共に共存共榮を図れるよう、連携・協力をしながら取り組んでまいりたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

東資協青年部創立三十周年 記念韓国視察事業に参加

この度、東資協青年部創立三十周年記念事業として二泊三日の日程で韓国の製紙メーカーと古紙問屋へ視察に当組合から東資協青年部長である吉浦亜矢子さんをはじめ四名で参加しました。

十月二十五日、韓国視察団メンバーと国際紙パルプ商事株林氏にアテンダして頂き韓国釜山空港へ、空港からはチャーターバスで中芯製紙メーカー「AJIN」へ直行しました。現地に着くと暖かく歓迎され会議室で会社の説明を受けた後、工場へ案内されました。パルパーなどの装置は日本の工場とさほど違いはない様に思いました。屋外へ出ると搬入されて来た段ボール古紙。品質によってランク分けされている。



原料となる段ボール古紙。品質によってランク分けされている。

二日目、視察先はDAEDOです。こちらの会社は古紙の回収、プレス、一般、産業廃棄物の粉碎も行う企業、二つのプラントと車庫を合わせると三万三千m²の広大な敷地です。

Koo会長自ら案内して頂きまずは古紙のプラントへ、プレス前の段ボールを見てみるとA級品とB級品の山に分かれしておりA級品は主に物流倉庫から、B級品は一般家庭などから回収された物のようだがかなり混ざっている物でした。ベーラーを見せて頂くとあまりのキレイさに驚きました。整理整顿がきちんとなされ床に物が置かれている事もありません、本当に普段使っているベーラーなのか疑つてしまふほどキレイにされました。奥には使用前の番線があり目を凝らすと日本でみるキレイに丸く巻かれた物よりも少しいび

り、近づくと食品残さも混ざつているのか匂いも感じる粗悪な物でした。韓国も分別ルールは厳しいと話していましたが日本の分別の質とは違いを感じました。

次に廃棄物のプラントを見学し最後はパッカー車が並ぶ車庫へ、ここでも驚いたのは車内の清掃が行き届いたパッカー車です。使い込んだ車のドアを開けてもどの車も同じ様に整理されフロアマットまで綺麗な状態でした。

隣接された二階建ての建物は作業員用の事務所兼休憩所で、こちらにはシャワールーム、洗濯機、エアロバイクやダンベルを備えたトレーニングスペースとなつてお

りました。Koo会長はこの会社が設備・管理・社員の意欲が韓国ナンバーワンだと、そしてこの仕事を汚い仕事から綺麗な仕事へ、地位のある仕事になるよう努力していると話していました。二日目の宿泊はソウルのためお昼過ぎに釜山空港から金浦空港へ向かいました。この日の夕食は韓国KPPの大林社長にもご参加頂き、韓国における古紙事情の意見交換を行ながら、焼肉店で大いに盛り上がりました。最終日はソウル市内で食事やショッピングを楽しみ夜の便で無事帰国しました。

今回の韓国視察を終え感じた事は、日本のキレイな古紙を維持していくためには分別をさらに徹底していく必要があり、そのためには我々業界の努力だけでなく行政の力も必要であり、官民一体となって取り組んで行かなくてはいけないということです。

もう一つは人手不足問題ですが、会長が話すようにこの業種の汚いイメージを払拭し地位ある仕事に変え、この業界で働きたいと思つてもらえる環境作りが大切だと感じました。(奥山商店 大久保 一)



古紙問屋DAEDO前にて集合写真



要望書を知事に手渡しました。28分30秒から東資協の予算要望が流れます。



関資連青年部大会でご講演をされている在りし日のコロッケ先生こと小六信和氏。

回収業界の現状の説明、分別回収への協力、コスト高への助成、人材確保への協力、集団回収への助成、都が主体に行うイベントでの資源物回収への参画要請等を中心的に要望を直接小池都知事に行うことができました。

こちらの模様は東京都の財務局のユーチューブチャンネルで見て頂くことが可能です。是非ご覧になつてみて下さい。
(福田)

去る十一月十九日に東京都へ資源業界からの予算要望のため、東京都資源回収事業協同組合で都庁に伺いました。昨年より東京都環境局資源循環部の方からお声掛けをいただき今年で二回目の参加になります。今回は、副理事長として説明の機会を頂きました。

学校や地域団体へ古紙リサイクルに関する出前授業を行つてあることを存じあげていましたので、先六信和先生でした。

以前からYouTubeでの小学校と関連青年部大会東京大会に来賓と関東各県の青年部員にお集まりいただき盛大に開催した会でした。その会で記念講演をお願いしたのが「コロッケ先生」こと小

私は二〇一六年四月から二年間、東資協青年部長を務めさせていただきました。楽しい思い出ばかりですが、なかでも一番の思い出は東資協青年部主管にて関資連青年部大会を開催したことでした。二〇一七年十一月十八日渋谷エクセルホテル東急にて約七十名のご来賓と関東各県の青年部員にお集まりいただき盛大に開催した会でした。その会で記念講演をお願いしたのが「コロッケ先生」こと小

生のスキルや思いを学ばせていただきたいとお願いしました。青年部の講演会に「私の活動を多くの若い方に知ってほしい」と岡山からの足代も謝礼も受け取らず快く

講師を引き受けいただき本当に嬉しかったのを思い出します。

「紙はゴミじゃない」簡単な言葉ですが、先生から発せられる言葉の熱量に圧倒されてしまい、今まで自分が地元地域で行っていた出前授業との違いに愕然たる思いが出てきてしまった事を今でも鮮明に覚えています。環境教育の先駆者であり、伝道師である「コロッケ先生」の教えを私も若い方に伝えられるよう今後も継続して活動を続けてまいります。

(福田)

古紙再生促進センター創立五〇周年記念式典

去る十月十六日(水)、公益財團法人古紙再生促進センターの創立

式典が開催されました。

シンポジウムは、五名の講師からのリレー講演会の後、パネルディスカッションという形式で行われました。最初の講演の東海大学細田教授のお話の中で、資源物の発生が減っていく中、量で稼ぐ時代は終わり、顧客満足度を高めながら付加価値を付けていくこと、

資源の高度な循環利用にどう貢献し、どう稼ぐか、若者や女性に魅力のあるビジネスにしていくことなどいうお話が印象に残りました。日本は団体戦に強い、守りではなく攻めの団体戦を行うべきとのお話をには、益々組合の重要性を感じました。伊勢原市の横山係長の難話がみ救出大作戦のお話も興味深く、地元でも学校などと連携して取り組んでいきたいと感じました。



記念シンポジウムでの基調講演の様子。会場はほぼ満席状態でした



多くの業界関係者が集まる中、式典で挨拶をする古紙センターの長谷川代表理事

(TKO)

リサイクル掲示板

地球環境を守るために、雑がみを集めて資源にしましょう！

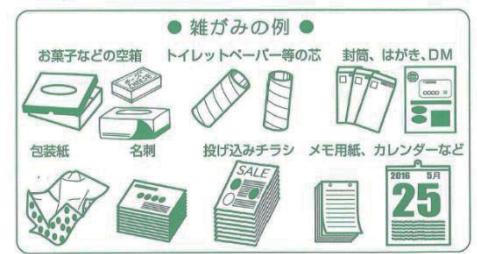
古紙50kgをリサイクルすることで、成木(樹齢30から40年・高さ25m・太さ25cm)を1本守ることができます。逆に古紙50kgを可燃ごみとして燃やしてしまえば、17kgのCO₂を排出することになります。古紙をリサイクルすることは、地球環境保全に貢献できるのです。

可燃ごみは週2回あるのに対して、古紙・古着の回収は自治体によって異なりますが、週1回～月2回程度しかありません。嵩張るし、分別も難しいので可燃ごみにされてしまうことが多いようです。令和5年度の多摩地域の組成分析調査の結果からすると、およそ4割の紙・繊維が含まれているとされています。このうち、繊維類やリサイクル出来ない衛生紙や汚れた紙類を除くと、5～10%程度はリサイクル可能な紙類が可燃ごみの中に混入していると考えられます。東多摩再資協の事業範囲である多摩六都5市の令和5年度の可燃ごみ収集量は87,961tですので、5市で1年間に約6,000t(市民一人当たりおよそ8kg)ものリサイクル可能な古紙が燃やされている可能性があります。

当組合では、こうしたリサイクル可能な紙類をごみ化から救出するため、繰り返し雑がみ類の掘り起こしについて広報を行っています。今回は、具体的にどのような紙類がご家庭に眠っているのか、探って参りたいと思います。

① まず、雑がみとは？

『雑がみ』とは、古新聞、古雑誌、段ボール、牛乳パック以外のリサイクル可能な紙類のことと言います。『雑がみ』は、雑誌と一緒にリサイクルされますので、古新聞や段ボールとは別にして、古雑誌に挟んで出すか、紙袋に入れて出せます。



② ポストから玄関、廊下までの間にある雑がみ

ポストの中に投函されたチラシ類、ハガキ、封書などは雑がみになります。

ビニール袋に入ったDMなどは、ビニールを剥がして出しましょう。玄関の中では、靴を買ったときの紙箱は段ボールか雑がみです。

なお、広告の入ったマグネットや通販などで使われる内側がビニールの緩衝材になっている紙袋は、リサイクル出来ません。

③ リビングや寝室、子ども部屋にある雑がみ

カレンダーやポスター、ティッシュの紙箱、お菓子やおもちゃの紙箱、家電や薬などの紙の説明書、学校からの手紙やテスト用紙、通知表、ノート、紙のしおり、紙の診察券やカード類、名刺、メモ用紙などがあります。煙草の箱は、周りのフィルムはプラスチックに、内側の銀紙を可燃ごみに分ければ、リサイクル出来ます。

④ 台所や洗面、トイレなど水回りから

食品や化粧品などの紙箱、紙袋、包装紙、ラップやトイレットペーパーの芯、割りばしの袋などがあります。牛乳パックは別にまとめて出しましょう。



ピザやケーキなどの食品残渣や油で汚れた紙、洗剤や線香などの臭いのきつい紙はリサイクル出来ませんので、古紙で出さないようにご注意ください。使用済みのキッチンペーパーやティッシュペーパー、またヨーグルトの容器や紙コップなど防水加工がしてある紙もなども古紙には混ぜないようにお願いします。

⑤ 私の家、会社で雑がみを集めました

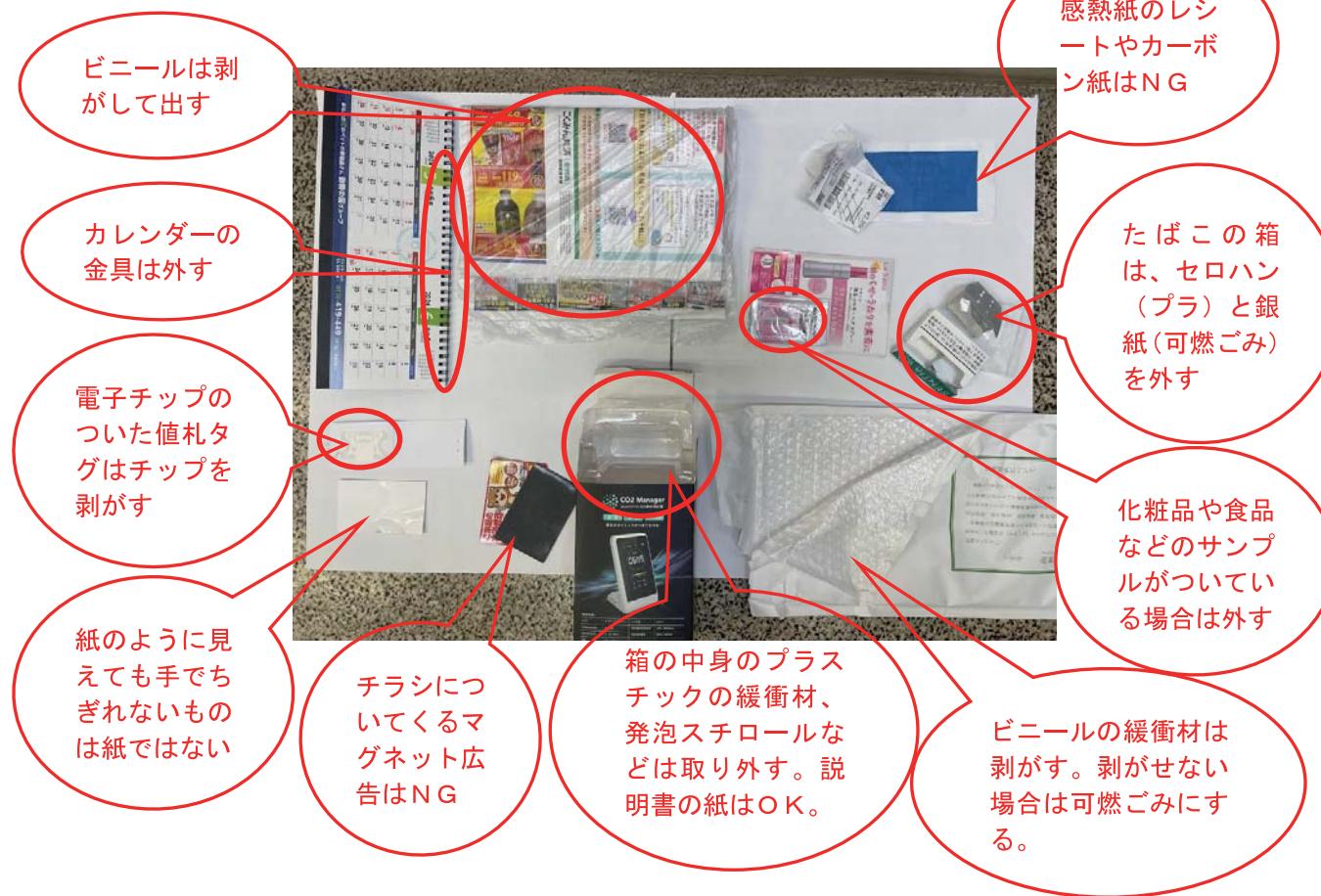
私は、雑がみ類を紙袋に入れて集めています。家族には、紙かどうかわからない時は手で破いてみるように伝えています。

また、汚れや油、臭いのついたものは入れないように注意しています。



⑥ こういう紙は注意が必要です

雑がみの中には、紙ではないもの(金属、木、プラスチックなど)を入れてはいけません。ホッチキスの芯などは外さなくて大丈夫ですが、バイインダーの金具や大きなクリップなどは外しましょう。ビニール袋やCD、サンプルなども外しましょう。



これらは、私の家や事務所から出てきた雑がみ、リサイクルできないものの一例です。分別が分からぬ場合は、お気軽に当組合にお問合せ下さい。各市の分別アプリ、公益財団法人古紙再生促進センターホームページでも分別の確認が出来ます。是非ご活用ください。

東村山市総合防災訓練



組合ブースではアンケートを実施しました。多くの市民にご来場いただきました。

市では、市民による自助・共助体制の強化「自分の身は自分で守る」「自分たちのまちは自分たちで守る」という防災の基本にたって適切な行動が行えるよう、応急救護訓練や関係機関による放水訓練等の訓練が行われました。

当組合では、市民の皆様へ資源物の分別に関するアンケートを実施、東多摩再資源化事業協同組合を見学し、無事終了いたしました。

(もつかいトラスト 高橋)

去る九月七日（土）午前十時から午後十二時まで東村山市第一中学校にて『令和六年度東村山市総合防災訓練』が実施されました。

東京都環境局 令和六年度
都域の災害対応力向上演習

十月三十日（水）小平・村山・大和衛生組合内において「東京都環境局令和六年度都域の災害対応力向上演習訓練型演習」が行われました。当組合は、小平市及び東村山市と災害時支援協定を結んでいたときました。都内市区町の職員の皆様が演習に参加し、災害対応力向上を目指し真剣な面持ちで想定訓練を実施していました。

講師のアジア航測株式会社をお迎えし、「設営」訓練、「積込」訓練、「運営」訓練、太陽光パネル取扱実演が行われました。

広いと思われた敷地内に、廃棄物の分別に関するアンケートを実施、東多摩再資源化事業協同組合を見学し、無事終了いたしました。

(もつかいトラスト 高橋)

官民連携による救護訓練、炊き出し訓練、防災展示コーナーなどを見学し、無事終了いたしました。

(もつかいトラスト 高橋)

害時にどのような形で参加協力構築を学びました。当組合が、災

東村山市エコライフフェア
に参加して



十時より、東村山市秋水園にてエコライフフェアが開催されました。当日は風が少しありましたがお天気に恵まれました。私は組合従業員として初めて参加したのでとても楽しみにしておりました。

お子様から高齢者の方まで多くの方々のご来場があり、リサイクルに関するアンケートや分別ゲームにも積極的にご参加くださいました。親子連れの方が多かつたのですが、分別ゲームに関してはお子様のほうがよくわかつていらしてびっくりしました。また、資源に關しての質問などが多々あり、先輩組合員の回答を聞き自分自身の勉強になりました。

今後も市民の皆様のご協力のもと、資源を大切にしてリサイクルに繋がるように働いていかなければと思います。

(事務局 井上)



各自治体担当者が参加した演習の様子

十時より、東村山市秋水園にてエコライフフェアが開催されました。当日は風が少しありましたがお天気に恵まれました。私は組合従業員として初めて参加したのでとても楽しみにしておりました。

お子様から高齢者の方まで多くの方々のご来場があり、リサイクルに関するアンケートや分別ゲームにも積極的にご参加くださいました。親子連れの方が多かつたのですが、分別ゲームに関してはお子様のほうがよくわかつていらしてびっくりしました。また、資源に關しての質問などが多々あり、先輩組合員の回答を聞き自分自身の勉強になりました。

今後も市民の皆様のご協力のもと、資源を大切にしてリサイクルに繋がるように働いていかなければと思います。

(事務局 井上)



東村山市立第二中学校

職場体験学習

十月二九日～三十日、東多摩再資協では去年に引き続き、市内の中学生の職場体験学習の受け入れをさせて頂きました。去年は天候の為、一日のみの体験でしたが、今年は好天に恵まれて二日間の体験になりました。

今回は東村山市立第二中学校の二年生、総勢八名の生徒を各社で担当してもらい、当社ではそのうち二名の生徒に来てもらいました。

初日はまず、挨拶から始まり、構内ではどの様な場所に危険が潜んでいるか、出入りする車両や重機の事故をどうすれば防げるかなど、充分気を付けなければいけない事を説明してから、スタートしました。午前は一人ずつ別の場所で、引き取りに行ってもらい、車の乗り降りする際には、歩行者、自転車、他の車に気を付けるように指導して、作業の手伝いをしてもらいました。午後は組合の事務所で、他の会社で体験している生徒と一緒に、リサイクルについての話や、古紙の分別の方法などの勉強会を実施しました。みんなそれぞれ真剣に取り組んでいて、改めて私たちも、気の引き締まる思いになるような時間になりました。

小平ごみゼロフリー・マーケット

(日興紙業商事 福田)

二日目は、構内での紐切り、古紙の分別、アルミ缶のプレスなど の作業を体験してもらいました。生徒はスポーツ部でしたが少し疲れなど、感じたようでした。

わざか二日間の体験でしたが、生徒達がリサイクルの大切さ、ごみ分別に関する知らなかつた知識などを、周りの家族や同級生に広げていただき、これからの中学生生活に活かしていただけたら素晴らしい事だなと、思います。



組合ブースにて、市民の皆様にアンケートのご協力をお願いしました。

ても行政から何らかのアプローチを頂けますことを願います。

(小平RC 坂田)

小平RC 現場責任者 紹介



小平市リサイクルセンターは、当組合と日本管財環境サービス(株)のJVで運営しておりますが、組合側の責任者が変わりましたので、ご紹介します。

わいをみせていました。芝生を取り囲む形で市役所の開催本部をはじめ様々なブースが設けられ、当組合も一角をお借りして、牛乳パックの受け入れ、使わなくなつたオモチャの受け入れとともに、ごみの出し方に関するアンケートを行いました。アンケートにお答えいただきました。びん・カンをバケツ等の容器で出すことの利点(ごみが減らせること)、私たちセンターでの作業性のこと)をお話しすると共感してくださる方がたくさんいらっしゃいました。ひとつとも残念なお話を伺いました。バケツで出した初日にバケツを盗られてしまい、それ以降また袋で出しているという方がいらっしゃいました。願わくは、バケツがなくなってしまつたのは強い風の仕業でありますように、また、排出用の容器に関し

今後も皆さんからの意見、提案等が様々な形で反映される作業環境を維持し、次に伝えてまいります。

官公需共同受注検査を定期的に実施しています

東多摩再資協では、官公需適格組合の認証の基づき、年四回の共同受注検査を実施しています。九月より新たに各社から推薦を頂いた共同受注検査員を正式に委嘱し、定期的に共同受注検査委員会を開催して検査の内容や結果報告について研修や協議をしながら活動を行っています。なお、共同受注検査委員会では、検査の他にも安全講習会の企画立案や、品質や安全向上につながるような提言を理事会に対して行っています。

そして、十月十四日～二三日には秋の検査を、十二月三日～十六日には冬の検査を組合事務所前、組合員事業所の他、東久留米市ごみ対策課敷地内をお借りしてそれぞれ実施しました。

今回も、車両の点検・整備状況や装備品、運転手の服装や法令順守について検査しました。大きな問題はありませんでしたが、指摘事項について改善の指導を行いました。

組合では、今後とも品質管理、安全管理のために定期的に検査活動を行つてまいります。



検査員が自社以外の組合員に対し検査を実施しています

組合員の異動のお知らせ

令和六年十月一日より、当組合

員の福田三商株式会社東村山事業所がもつかいトラスト株式会社に事業譲渡され、同社東村山事業所として事業を開始されました。

十月十四日の組合理事会にて、名義変更の承認がされ、正式に組合員となりました。今後は、もつかいトラスト株式会社東村山事業所として、これまで通り組合委託事業を担つて頂きます。

合員となりました。今後は、もつかいグループは、資源リサイクル・紙管製造を通し、限りある環境資源の循環を経営の礎として、地域社会から信頼される企業であることを目指しています。

この度、縁があり東村山に営業所を置くこととなりました。古紙業界では、紙の消費減や人手不足、その他様々な経費増など取り巻く環境は非常に厳しい状況ですが、ここ東多摩地区で活躍されております回収業者の皆様と協力して、地域の資源リサイクルに貢献していくればと思います。また、これからは新たな商材を掘り起こすことも課題であると認識しておりますので、東多摩地区の皆様と共に取り組んでまいりたいと思いますので、これからもよろしくお願い申し上げます。

株式会社もつかいトラスト
代表取締役社長 長谷川 裕一



もつかいトラストは、一九五八年北海道名寄市にて紙管製造業の北海紙管株式会社として創業しました。そして、一九七四年古紙リ

サイクル事業をスタートさせ、紙管製造業と資源リサイクル業の二本柱で事業を行つてまいりました。その後、二〇一九年四月、紙管製造業の北海紙管と資源リサイクル業のもつかいトラストへと会社分割を行い、ほつかいもつかいグループとし、現在では北海道十二事業所、本州十八事業所となりました。

サイクル事業を行つてまいりました。その後、二〇一九年四月、紙管製造業の北海紙管と資源リサイクル業のもつかいトラストへと会社分割を行い、ほつかいもつかいグループとし、現在では北海道十二事業所、本州十八事業所となりました。

紺野専務理事が中央会会長表彰を受けました。

去る十月十七日、銀座プロツサムにて東京都中小企業団体中央会の表彰式が開催されました。当日は、嘉悦大学副学長真田幸光氏による基調講演があり、激動の世界情勢の中で日本の目指す国家像などに関するお話を頂きました。

講演ののち、各種団体の役員や事務局員に対する表彰が行われ、当組合の紺野専務理事が二〇一三年以来、十年超に亘る長年の組合活動の功績を認められ、東京都中小企業団体中央会会长表彰を頂きました。

【謝辞】 創立二十周年式典で、先代理事長の父が急に引退を宣言して以来、専務理事を拝命し、吉浦理事長をお支えしながらあつという間の十一年でしたが、このようないい處を頂きました。

うな表彰を頂き、大変光栄です。今後とも組合と業界の発展のため尽力して参ります。（TKO）



東資協で表彰をされた上村副理事長に写真を撮って頂きました

組合で全車両に取り付けている AIDIドライブレコーダーの会社 の取材を受けました

当組合では、回収に使用している全一〇九台の車両に、AIDIドライブレコーダーを取り付けています。二〇二三年末の運用開始以来、一年が経過し、その効果は組合加盟各社において、着実に出ていると感じています。

このドライブレコーダーは、運転手の顔を認証し、運転中に急加速、急減速、急ハンドル、一時不停止、速度超過、車間距離不足、わき見、急後退を検知すると、リスク運転として動画が記録されます。各運転手の運転スコアも百点満点でカウントされるため、これを元に安全運転指導に役立てることが出来ます。さらに、衝撃の感知、危険なわき見、極端な車間距離不足などよりハイリスクな運転を感じた場合は、責任者にメールが送られます。

車両のリアルタイムの位置情報が分かったり、遠隔にてドライブレコーダーの映像をダウンロード出来たり、運転日報を作成出来たりと便利な機能もあり、運行管理にも一役買っています。



記事のQRコード(上)と記事の一面(右)です。
是非ご覧下さい。



私たち回収業者は、資源物の重量×売払い代金によって運営をしているので、回収する資源物の重量が減ってしまうと回収コストを貯えなくなります。実際に他の市で数十件の団体の回収を行つていた回収業者が廃業し、集団回収の継続が難しくなつてしまつたという話も聞いています。人件費や燃料費、車両代なども年々上がつており、コスト増に見合うだけの回収量が維持できないと、回収業者にとってはお手上げとなります。回収する業者がいなくなれば、集団回収は継続できません。

当組合では、地域コミュニティの醸成に寄与しながら、長年市民行政と協力しながら行ってきた集

ーダーを取り付けて以来、毎週各社のリスク運転数をグラフ化し、業務委員会で情報共有しながら、リスク運転の低減に取り組んでいますが、現在は、取付当初の三分の一にまでリスク運転が減っております。また、物損事故についても、半減しています。

組合の取組について、紺野専務理事がドライブレコーダーの販売元であるG.O.株式会社の取扱い詳しいお話を、記事をご覧頂きたいと思いますので、左のQRコードから是非ご覧下さい。

重量のある新聞、雑誌が減り、雑がみや段ボールが増えているため、嵩は増えているという中で、マンションなどは置場が十分に確保されず毎週回収など頻度を増やすようになり要望されることが増えています。

私たち回収業者は、資源物の重量×売払い代金によって運営をしているので、回収する資源物の重量が減ってしまうと回収コストを貯えなくなります。実際に他の市で数十件の団体の回収を行つていた回収業者が廃業し、集団回収の継続が難しくなつてしまつたという話も聞いています。人件費や燃料費、車両代なども年々上がつており、コスト増に見合うだけの回収量が維持できないと、回収業者にとってはお手上げとなります。回収する業者がいなくなれば、集団回収は継続できません。

集団回収の維持継続のため

回収を何とか維持継続していくために、集団回収委員会を定期的に開催しています。団体の規模の大小に関わらず集団回収を安定的に維持継続していくよう、各市に支援要望を行うとともに、回収のルート化や伝票作成などの事務の効率化を図っています。

団体の皆様にも、なるべく回収量を増やすためのご協力と、回収日時や回収頻度、回収場所の変更など回収業者からの要請に対するご理解を賜りますように組合からもお願いを申し上げます。

東村山市の『ワーク・ライフ・バランス推進優良企業』認定

去る十一月二一日、『ワーク・ライフ・バランス優良企業認定証交付式』が行われ、当組合も渡部市長より認定証を交付されました。

『ワーク・ライフ・バランス』とは、仕事と生活を調和させ、そ

の両方を充実させる働き方、生き

方のことです。今回は、従業員に

その機会を提供し、推進している

企業を認定するものです。

当組合は、行政の委託業務を行つてゐる関係で祝日も稼働しており、まだまだ改善していかなくてはならない課題はあります。働きやすい職場づくりに引き続き努めて参りたいと考えております。



認定証授与式当日
は、吉浦理事長の代理で紺野専務理事が出席し、東村山市渡部市長より認定証を頂きました。

行事・行動

- 【十月】
- 二日：東村山市エコライフエア実行委
- 七日：小平RC責任者会議
- 十一日：清瀬市廃棄物減量審

十八日：共同受注検査（西東京市）	：東村山市エコライフエア事前準備	：札幌市資源リサイクル協組創立三〇周年
二〇日：東村山市エコライフエア	：業務・集団回収委員会	十二日：関資連青年部大会神奈川大会
二一日：共同受注検査（東村山市）	：業務・集団回収委員会	十四日：共同受注検査（東村山市）
二二日：東村山市エコライフエア	：業務・集団回収委員会	十五日：共同受注検査（西東京市）
二三日：共同受注検査（西東京市）	：小平RC責任者会議	十六日：小平市ごみゼロフリーマーケット
二五～二七日：東資協韓国視察	：業務・集団回収委員会	十七日：日資連理事会
二九日：東村山市立第二中職場体験	：業務・集団回収委員会	十九日：東京都知事予算ヒヤリング
三〇日：東村山市立第二中職場体験	：共同受注検査委員会	二十日：東村山市収集業者連絡会議
：東京都災害対応力向上演習	：共同受注検査委員会	二十一日：東久留米市ワーク・ライフ・バランス認定證交付式
：東村山市エコライフエア実行委	：共同受注検査委員会	二五日：業務・集団回収委員会
五日：西東京市廃棄物減量審	：業務・集団回収委員会	二六日：西東京市委託事業所意見交換会
：小平RC責任者会議	：小平RC責任者会議	二九日：小平RC職員忘年会
六日：小平市廃棄物減量審	：業務・集団回収委員会	二四日：東多摩再資協新年会
：共同受注検査委員会	：業務・集団回収委員会	二七日：業務・集団回収委員会
八日：東資協拡大理事会	：共同受注検査委員会	二九日：東村山市収集業者連絡会議
：財務委員会	：共同受注検査委員会	十三日：定例理事会

【十一月】	三日：共同受注検査（西東京市）	：古紙センター新年五��会
六日：共同受注検査（西東京市）	：小平RC関連JV会議	九日：中央会新年賀詞交歓会
九日：東リ協会理事会	：業務・集団回収委員会	十日：小平RC関連JV会議
十一日：共同受注検査（東村山市）	：財務委員会・定例理事会	：小平市長表敬訪問
十三日：共同受注検査（東久留米市）	：業務・集団回収委員会	：東資協理事会
一六日：共同受注検査（東村山市）	：財務委員会・定例理事会	：古紙センター新年五��会
二三日：小平市リサイクルきやらばん	：業務・集団回収委員会	九日：中央会新年賀詞交歓会
二七日：事務局仕事納め	：業務・集団回収委員会	十日：小平RC関連JV会議
三一日：小平RC仕事納め	：業務・集団回収委員会	：小平市長表敬訪問

編集後記

直言抨論をご寄稿頂きました武田理事長、ありがとうございます。業界のこと、市況のことを分かりやすく発信して頂いたと感じています。引き続き、福田副理事長、吉浦青年部長と共によろしくお願い申上げます。

さて、昨年十月からの郵便料金、一月からの読売新聞の購読料値上げが今後の古紙の需要にどう影響していくか心配されます。安心、安全、適正なリサイクルを維持していくためには絶対的な荷物の量が必要です。回収量を増やすための営業努力を惜しまない覚悟ですが、市民の皆様にも難がみのごみ化を防止するための掘り起こしなどご協力をお願いします。(TKO)